２０１８年欧州ロード・レース研修について

京都府立北桑田高等学校　市川　光人

今回の育成事業を通して自分の弱さと、日本と海外のレースの違いを知ることが出来ました。日本のレースは、スタート直後は比較的ゆっくりですがベルギーでのレースは違いました。スタートと同時に一気にペースが上がります。自分が走った６レースとも登りといえる登りはありませんでした。緩やかな平坦といった感じでしたが、横に広がった集団で登るのではなくほぼ全力で踏んで進んで行くという感じです。集団は縦一列に長く伸びます。コーナーも日本ほど減速せずに突入していきます。その為、選手同士の接触も多かったと思います。日本人は他の国の選手と比べ体が小さく謙虚なのでレース中は常に強気でいないといけません。体が小さい分、気持で勝っていかないとレースで勝つことはできないと思います。日本と比べて道も狭く、きれいではありません。時には石畳もありました。酷い段差や砂利道を走る場合もあります。脚があっても容易には集団前方に行くことはできませんでした。整備されたきれいな道を走るのではないのでパンクなどもよくします。集団後方のチームカーに速やかに伝え、ホイルを交換して集団に戻ります。日本では経験することができないのですごく勉強になりました。

レース中にレースが突然中断されたこともありました。理由は分かりませんでしたが日本ではありえない事です。先導車が集団前方に位置し「ペースをおとせ」と指示を出し、スタートフィニッシュ地点で５分程ですがレース中断。本当にびっくりしたし何が起きたんだろうと思いました。日本と違いコースが全面規制ではない為、このような事が起こるのだなと改めて日本との違いに気付かされました。

食事については、日本では主に米を食べますがベルギーでは麺類やパンなどが主な食事でした。何日も続けて同じものを食べていると飽きてくることもありますがしっかりと食事をとらないとダメだということも学びました。こちらのレースはほとんどが８０キロを超える長距離レースばかりだったのでしっかりと食べておかないとハンガーノックになってしまいます。初日のレースではレース後、ハンガーノックでなかなか体が動いてくれなかったので身をもって体験できたのもいい経験となりました。

今回の育成事業で海外の選手との差を知ることができました。中でも体格は日本人と比べものになりませんでした。日本で通用する戦い方をしていても海外では通用しないということもわかりました。日本での当たり前は海外では当たり前ではありません。集団の走行スピードやコーナーへの突入スピード、レース状況や環境など色々な点が日本とは違います。大学で勝つためには今回、力不足と感じた点は強化しなければいけません。何事にも全力で常にチャレンジ精神で最後まで絶対にあきらめないという気持ちで今後も頑張っていきます。